

財政収支(2017年1-10月)

(1) 2017年1-10月における歳入は前年同期比13.8%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は18.0%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比23.1%増加するなど、歳出全体では18.4%の増加となった。

(3) 財政収支は350億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは53.3%減少し、152億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	447,850	509,442	13.8%
税収	365,035	430,909	18.0%
所得税	78,338	90,868	16.0%
法人税	31,203	40,368	29.4%
付加価値税(国内及び輸入)	102,839	123,999	20.6%
特別消費税	96,457	111,424	15.5%
その他税収	56,198	64,250	14.3%
税外収入等	82,815	78,533	▲5.2%
歳出(b)	459,990	544,403	18.4%
人件費	125,889	136,775	8.6%
物品及びサービスの購入	37,931	46,259	22.0%
経常移転	182,801	225,075	23.1%
資本支出	34,387	44,475	29.3%
支払利子(c)	44,583	50,122	12.4%
その他歳出	34,399	41,697	21.2%
財政収支(a-b)	▲12,140	▲34,961	▲188.0%
基礎的財政収支(a-(b-c))	32,444	15,161	▲53.3%

経常収支(2017年1-9月)

(1) 2017年1-9月の経常収支は、前年同期比27.1%減少し、311億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比31.7%の減少、旅行収支は同28.2%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

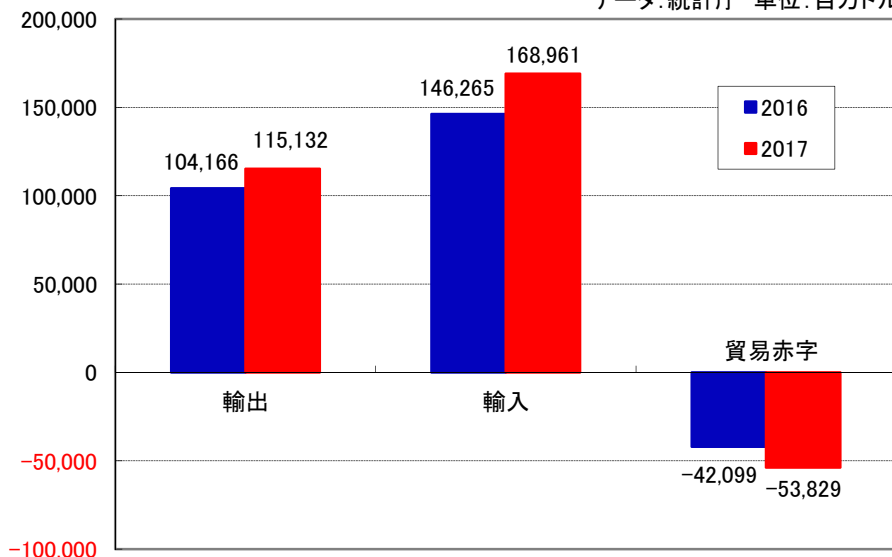
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲24,482	▲31,109	▲27.1%
貿易収支(物品)	▲30,945	▲40,751	▲31.7%
サービス収支	12,094	15,817	30.8%
旅行収支	10,696	13,710	28.2%
その他サービス収支	1,398	2,107	50.7%
第1次所得収支	▲6,816	▲7,842	▲15.1%
第2次所得収支	1,185	1,667	40.7%
労働者送金	422	328	▲22.3%
その他第2次所得収支	763	1,339	75.5%
資本移転等収支	23	18	▲21.7%
金融収支	▲20,939	▲32,021	▲52.9%
直接投資	▲6,787	▲5,515	18.7%
証券投資	▲8,809	▲23,518	▲167.0%
その他投資	▲10,987	▲2,519	77.1%
外貨準備	5,644	▲469	▲108.3%
誤差脱漏	3,520	▲930	▲126.4%

貿易収支(2017年1-9月)

(1) 2017年1-9月の輸出額は1,151億ドル(前年比10.5%増)、輸入額は1,690億ドル(同15.5%増)となり、この結果、貿易収支は538億ドルの赤字(同27.9%減)となった。

(2) 2017年1-9月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.5%(前年48.5%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.6%(同38.9%)となっている。

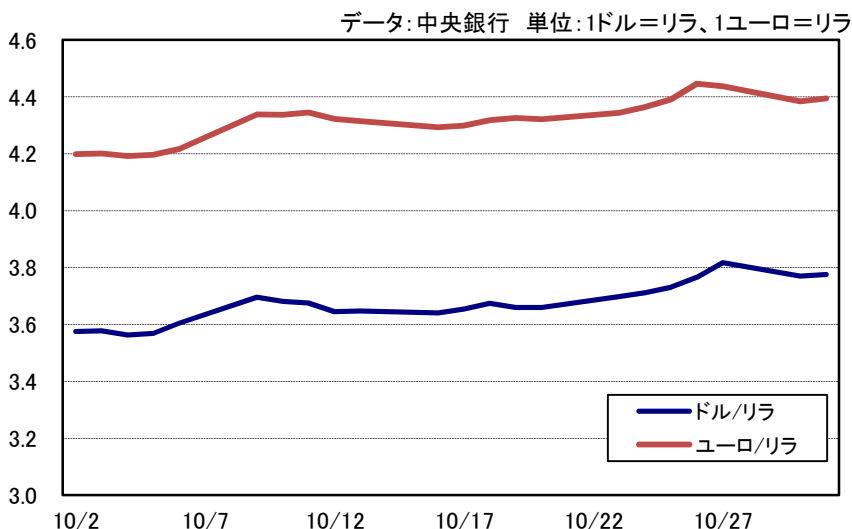
データ:統計庁 単位:百万ドル



為替(10月)

(1)10月のドル・リラ相場は、月初から月を通してリラが売られ、最終的には、1ドル=3.78リラとなった。

(2)ユーロ・リラ相場もドルと同様の動き。一時1ユーロ=4.4リラを超え、最終的に1ユーロ=4.39リラで越月した。

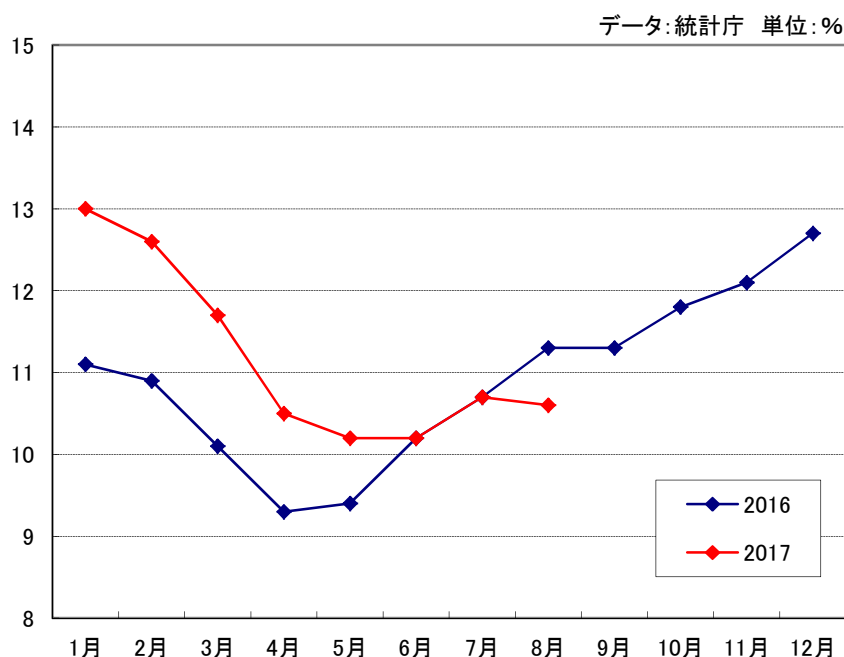


失業率(8月)

(1)2017年8月期の失業率は、10.6%。前年同期から0.7ポイントの下落、前月から0.1ポイントの下落。

(2)労働力人口は3,223万人、就労者数は2,883万人、失業者数は340万人。

(3)男性の失業率は8.4%、女性は15.0%。若年層(15-24歳)の失業率は20.6%となっている。



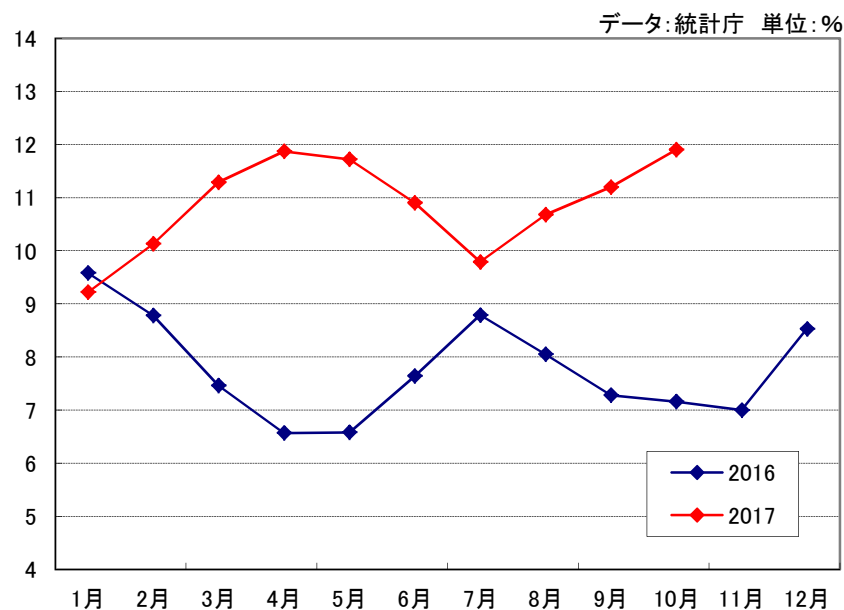
物価上昇率(10月)

(1)2017年10月の消費者物価は前月から2.08%の上昇。年間では11.90%の上昇。

(2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは衣類・履物類で11.51%。年間で最も上昇したのは運輸で16.79%。

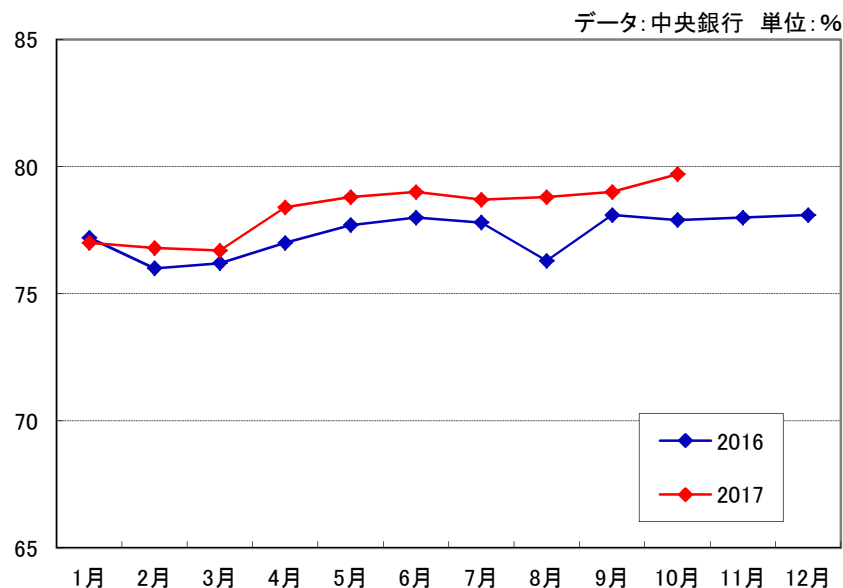
(3)本年末の中銀見通しは9.8%。

(4)国内生産者物価指数は前月から1.71%上昇し、年間で17.28%の上昇となった。



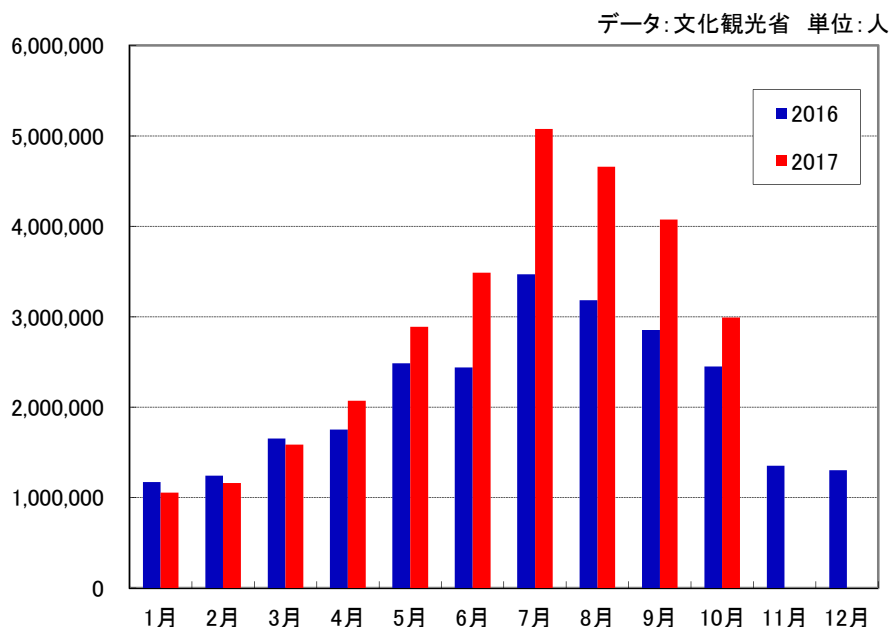
設備稼働率(10月)

(1) 2017年10月の設備稼働率は79.7%となり、前月から0.7ポイントの上昇。前年同月からは1.8ポイントの上昇となった。
 (2) 製造業の分野別では、コンピュータ及び電子・医療機器(92.2%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(60.3%)が最も低い稼働率であった。



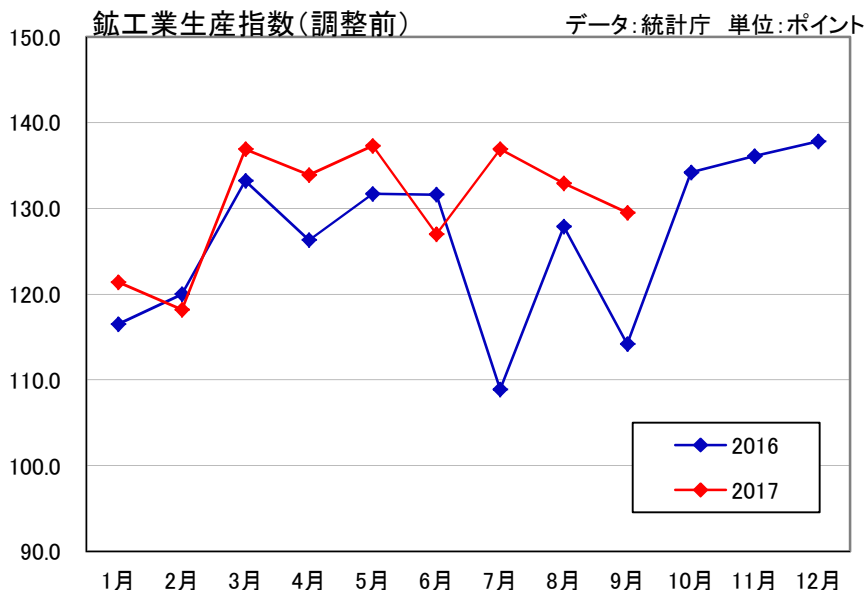
外国人訪問者数(10月)

(1) 2017年10月にトルコを訪れた外国人訪問者は299万人であり、前年同月比22.1%増となった。
 (2) 訪問者数を国別に見るとロシアからが最も多く44.3万人で全体の14.8%を占める。以下、ドイツ(41.3万人)、イラン(22.2万人)となっている。
 (3) なお、日本からの訪問者は5,437人(前年同月比64.3%増)となった。



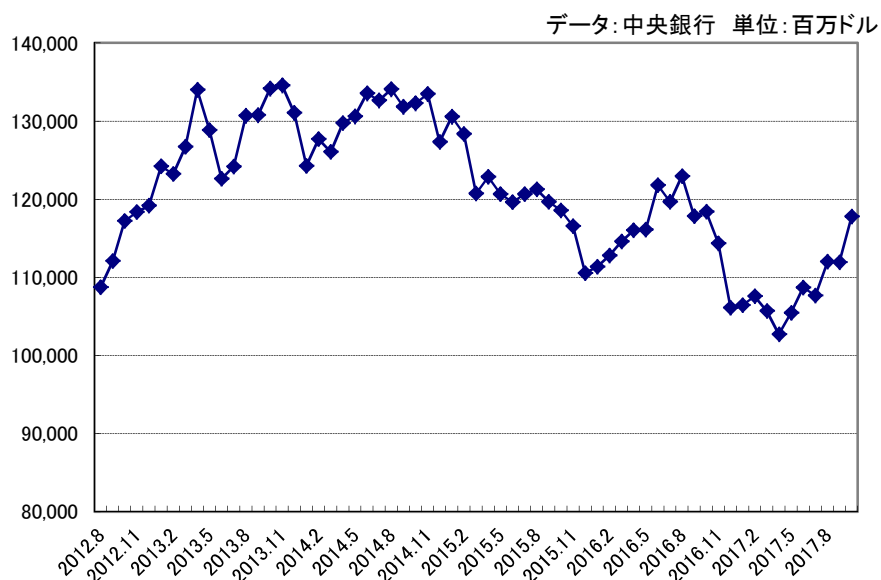
鉱工業生産指数(9月)

(1) 2017年9月期の鉱工業生産指数(調整前)は132.9ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は10.4%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は0.6%の上昇。
 (2) 分野別では、耐久消費財が前月比6.6%増、鉱業・採石が同5.7%増となっている。



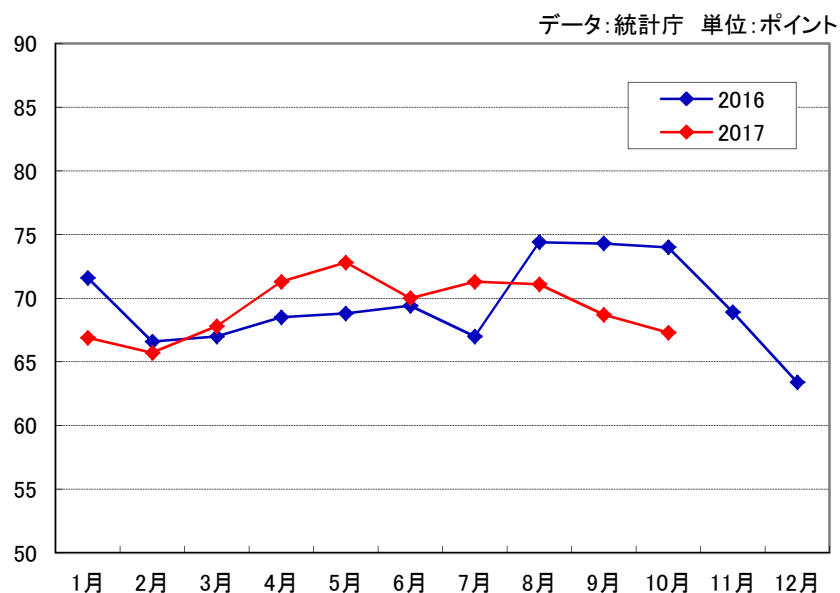
外貨準備高(10月)

(1)2017年10月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,178億ドルとなり、3か月連続で1,100億ドル台を維持した。
 (2)2017年に入り、外貨準備高は順調に増加している。



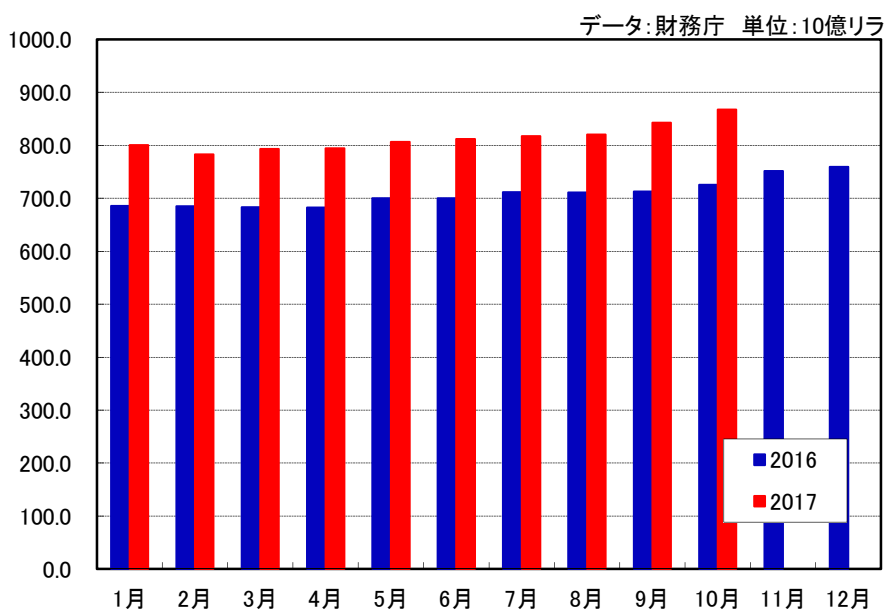
消費者信頼感指数(10月)

(1)2017年10月期の消費者信頼感指数は前月の68.7ポイントから2.0%下落し、67.3ポイントとなった。
 (2)内訳では、貯蓄可能性が4.2%上昇し21.0ポイントとなったのに対し、一般経済見通しが4.5%下落し90.4ポイント、



中央政府債務残高(10月)

(1)2017年10月時点での中央政府債務残高は8,674億リラとなり、前年同期比19.6%増加した。なお、前月比では3.0%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に61.0%となっている。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.5%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。